

具体的な取組状況


環境計画に掲げた26の取組事項に関する令和6(2024)年度を取組状況について、次のとおり取りまとめました。


例


① ○○○○○○		②	
取組概要 ○ ○ ○	進行管理の指標 ○ ○ ○	令和4（2022）度の取組結果 ○ ○ ○	
③	④	⑤	
		評価	⑥
今後の取組 ○ ○ ○		⑦	
⑧		⑧	

凡 例

- ①取組事項の名称
- ②取組事項に関連する事業（水道・工水・下水）
- ③環境計画の計画期間における取組内容の概要
- ④取組事項の進行管理の指標（数値目標等の計画値、内容）
- ⑤計画値等に対する令和6(2024)年度を取組結果
- ⑥⑤の取組結果の評価※P10～13に記載の評価も下記の通り
 - ・目標を大きく上回って達成
（目標値に対して150%以上） ⇒ 1
 - ・目標を上回って達成
（目標値に対して105%を超え150%未満） ⇒ 2
 - ・目標をほぼ達成
（目標値に対して95%以上105%以下） ⇒ 3
 - ・目標を下回った
（目標値に対して50%を超え95%未満） ⇒ 4
 - ・目標を大きく下回った
（目標値に対して50%以下） ⇒ 5
- ⑦令和6(2024)年度以降の取組内容
- ⑧写真・図等

I		脱炭素社会の実現		
I - 1		省エネルギー及び温室効果ガスの削減		
I - 1 - (1)		省エネルギー型機器の採用		水道 工水 下水
取組概要		進行管理の指標		令和6(2024)年度 of 取組結果
○施設・設備の更新や事業所の改築等に合わせて、高効率の受変電設備や散気装置、LED照明設備を採用し、省エネルギー化を図る。		○照明器具をLED照明に更新 ○設備の更新に合わせた省エネルギー型設備の導入の推進		○千代ヶ丘配水塔の建屋照明をLED照明に更新（施工中） ○生田浄水場工水6号管さく井で高効率型の変圧器に更新 ○麻生水処理センターでLED照明に更新 ○加瀬水処理センターで高効率な散気装置の更新工事を継続 ○等々力水処理センターで高効率型の変圧器に更新
		評価	水道	3
			工水	3
			下水	3
今後の取組				
○照明器具をLED照明に更新 ○設備の更新に合わせた省エネルギー型設備の導入の推進 ○変圧器は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）の基準を満たした高効率型（トップランナー変圧器）の導入 ○高効率な散気装置の導入				
		LED照明設備		

I - 1 - (2)	自然流下方式による取水・送水・配水	水道	工水	下水
取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度 of 取組結果		
		評価	水道 工水	3
今後の取組		 <p>上流取水の優先的利用のイメージ</p>		

I - 1 - (3)	下水汚泥焼却炉の高温焼却化と二段燃焼化	水道	工水	下水												
取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度取組結果														
		評価	下水	3												
今後の取組	<div><p>(単位: kg-N₂O/wet-t)</p><table><thead><tr><th>燃焼方法</th><th>N₂O排出量 (kg-N₂O/wet-t)</th><th>削減率</th></tr></thead><tbody><tr><td>830℃燃焼時 [従来の焼却技術]</td><td>0.991</td><td>-</td></tr><tr><td>850℃燃焼時 [高温焼却]</td><td>0.645</td><td>35%削減</td></tr><tr><td>高温焼却+二段燃焼時</td><td>0.263</td><td>73%削減</td></tr></tbody></table></div>				燃焼方法	N ₂ O排出量 (kg-N ₂ O/wet-t)	削減率	830℃燃焼時 [従来の焼却技術]	0.991	-	850℃燃焼時 [高温焼却]	0.645	35%削減	高温焼却+二段燃焼時	0.263	73%削減
燃焼方法	N ₂ O排出量 (kg-N ₂ O/wet-t)	削減率														
830℃燃焼時 [従来の焼却技術]	0.991	-														
850℃燃焼時 [高温焼却]	0.645	35%削減														
高温焼却+二段燃焼時	0.263	73%削減														

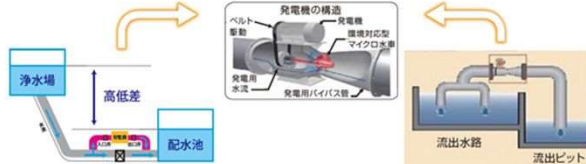
焼却物（脱水汚泥）1tあたりのN2O排出量の比較

焼却物（脱水汚泥）1tあたりのN₂O排出量の比較

I - 2 再生可能エネルギーの有効利用

I - 2 - (1) 小水力発電の実施

水道 工水 下水



取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果	
○江ヶ崎制御室、鷺沼配水池及び平間配水池において、浄水場と配水池等の高低差を活用した小水力発電を実施し、再生可能エネルギーの有効利用に努める。 ○入江崎水処理センターにおいて、処理水が流れる水路の落差を活用した小水力発電を実施し、再生可能エネルギーの有効利用に努める。	【令和6(2024)年度年間売電量】 ＜水道事業＞ ・江ヶ崎制御室 270,000kWh/年 ・鷺沼配水池 530,000kWh/年 小計 800,000kWh/年 ＜工業用水道事業＞ ・平間調整池 860,000kWh/年 ＜合計＞ 1,930,000kWh/年 【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜下水道事業＞ ・入江崎水処理センター 60,000kWh/年	【令和6(2024)年度年間売電量（実績）】 ＜水道事業＞ ・江ヶ崎制御室 292,086kWh/年 ・鷺沼配水池 583,354kWh/年 小計 875,440kWh/年 ＜工業用水道事業＞・平間配水池 975,005kWh/年 ＜合計＞ 1,850,445kWh/年 ※ 江ヶ崎制御室は固定価格買取制度の買取期間満了のため、令和6年10月1日から発電を停止した。 【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜下水道事業＞・入江崎水処理センター 47,208kWh/年 ※目標設定時と比べ、雨天日が多かったことや、りん濃度の高いスラッジセンターの返流水を主に受け持つ東系処理水の水質を確保するため、センター内の系列間で水量調整を行ったことにより、発電機を通る水量が減少したため。	
		評価	水道
		工水	2
		下水	4
今後の取組		【小水力発電の仕組み】 	
○小水力発電による発電を継続実施 ○入江崎水処理センターにおける小水力発電を継続的に実施し、発電した電気の全量を施設内で有効利用することにより、CO2排出量の削減に努める。			

I－2－(2) 太陽光発電システムの導入と発電の実施		水道	工水	下水
取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度 of 取組結果		
○長沢浄水場、生田配水池及び入江崎水処理センターで太陽光発電システムを稼働させ、電力使用によるCO2 排出量を削減する。	【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜水道事業＞ ・長沢浄水場 800,000kWh/年 【令和6(2024)年度年間売電量】 ＜水道事業＞ ・生田配水池 1,060,000kWh/年 【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜下水道事業＞ ・入江崎水処理センター 108,000kWh/年	【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜水道事業＞ ・長沢浄水場 761,520kWh/年 【令和6(2024)年度年間売電量】 ＜水道事業＞ ・生田配水池 1,284,083kWh/年 【令和6(2024)年度年間発電量（自家消費）】 ＜下水道事業＞ ・入江崎水処理センター 124,822kWh/年		
		評価	水道	2
			下水	2
今後の取組				
○長沢浄水場において、太陽光発電システムで発電した電力を自家消費することで買電電力の消費を抑え、CO2排出量の削減に努める。 ○生田配水池において、太陽光発電システムによる発電を継続実施し、CO2排出量の削減に努める。 ○入江崎水処理センター沈砂池管理棟の屋上部に設置した太陽光発電システムで発電した電気の全量を施設内で有効利用することにより、CO2排出量削減に努める。 ○PPAモデルを適用した太陽光発電による再生可能エネルギー電力の導入に向けた事業を進める。		<div> 長沢浄水場</div> <div> 入江崎水処理センター</div>		

I－2－(3) 廃熱発電設備の導入		水道	工水	下水
取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度取組結果		
		評価	下水	3
今後の取組		 <p>廃熱発電設備のイメージ図</p>		

I - 3	グリーンインフラの活用
-------	-------------

I - 3 - (1)	植栽の保全と緑化	水道	工水	下水
-------------	----------	----	----	----

取組概要	進行管理の指標	令和6(2024)年度の取組結果		
○水道施設、工業用水道施設及び下水道施設の敷地内に樹木を配置して適切な植樹管理を行うことにより、CO ₂ の吸収を図るとともに、施設の景観の向上やヒートアイランド現象の緩和に寄与する。	○施設の敷地内について、周辺の自然環境や景観に配慮しながら、植栽を保全	○植樹管理業務委託による植栽の適切な管理や職員による剪定・除草作業によって、植栽の保全が図れ、ヒートアイランド現象の緩和に寄与 ○水道施設敷地内の植樹維持管理を実施		
		評価	水道	3
			工水	3
			下水	3
今後の取組				
○施設の敷地内において、周辺の自然や景観に配慮しながら、植栽の適切な保全に取り組み、ヒートアイランド現象の緩和に寄与		<div><div></div><div>長沢浄水場</div></div> <div><div></div><div>麻生水処理センター</div></div>		